

TEL:075-813-5800(代)
FAX:075-811-5550



『各現場から』 ―現場監督の声―

先月から着工し、ようやく基礎が完成しそうです。今回は今まで私が担当してきた洋風の家ではなく、純和風の家なので、正直初めは戸惑いました。教科書の上でしか知らなかった用語がたくさん出てきて、納め方ひとつにしても洋風とは違う点がたくさんあったからです。大工さんにはいろいろと教えてもらいました。

でもやはり「百聞は一見に如かず」。その点では周辺に参考になる家がたくさんあったので、理解するのに時間はかかりませんでした。

また大工さん以外にも協力業者様にはいつもいろいろ教えていただき、勉強させていただいています。

今回は同敷地内での新築工事の為、既存家屋にお施主様が住んでおられる状態での工事です。すごく研究熱心なお施主様で、工法などで疑問に思われたことはすぐに質問されます。

また、自分が気付かなかったこともご指摘を受けます。（本当は自分が先に気付かなければいけないのですが…）

しかし、これは本当にありがたいことだと思います。本来私が現場にいるのは工事を安全に進めることもそうですが、やはりお施主様の意向を現場に伝え、それを形にするのが第一だと思っています。

お施主様は、家が建つことをすごく楽しみにされています。反対に不安に思う面もあっておられると思います。その不安を少しでも安心に変え、お施主様が満足のいくものをつくるのが我々の仕事だと思います。

来月には上棟の予定です。山庄に頼んで良かったと思っています。ただ、日々勉強頑張ります。

小西 達也



今回、私が初春から受け持ったのは、昔ながらの商店が建ち並ぶ下京区の鉄骨3階建の二世帯住宅新築現場です。

施工において気を付けなくてはいけない事は多々ありますが、今回特に気を付けた事は、構造が鉄骨である事。普段木造住宅を主に担当しておりますので、工程的に鉄と木の違いはありますがほぼ同じ流れで進みます。

が、基礎から建て方（屋根までの骨組み）までの基本になる部分を、1ミリでも違わない様（当たり前の事ですが）何回も何回も確認をし、（本当に周りの人に助けられながら）より慎重に家の骨格となる工事を行いました。難しさを改めて痛感しました。

そして工事的（ハード的）な事もさることながら、現場は“生き物”です。人と人が息をしている所でもあるんです。朝の元気な挨拶、夕方の「お疲れ様です」の一言。このちょっとした事が大きく現場を左右すると私は思います。

特に職人さんには当然ですが、近隣の皆様との日頃のご挨拶は非常に大切な事だといつも感じております。（一番の現場監督ですから。）

それに、一番大事なお施主様との心と心のお付き合い。真心込めて、真剣に“お施主様の夢をご一緒に創らせて頂く！”そんな気持ち genuinely 大切にしたい。心の中の片隅にしまい、一日一日本気でお施主様が今、何を考え求められ、満足して頂けるか常にアンテナを張り巡らし、意思の確認を行い、頑張っていきたいと思っています。

私の今回の現場のキーワードは、「確認」です。

檜 田 勉

分 別

宮 川 浩 一

昨年の瓦版でも触れた事があるのですが、中年の健康管理の一環として朝のジョギング（散歩）を日課としています。と書いたことがありました。

実はここ半年ほどは、冬で寒かった事や、なかなか体調が優れなかった事、その氣にならなかった事、要は自分に都合の良い言い訳を並べてお休みをしていました。

それがここ1ヶ月ほど前から、これも又都合の良い言い訳を並べて、良い季節ですのでジョギングを再開いたしました。

5:30起床、外はすっかり日の出。私の住まわせて頂いている地域は、幸いにも散歩をするには、嵐山あり、大覚寺あり、それはそれは毎日が観光気分と言っていいほど恵まれた場所に居させてもらっています。

今は1年の中でも最高の気候でしょう。さわやかな気候に、萌え立つ緑、ホトトギスを筆頭に小鳥たちの心地良いデュエット。至福の朝の1時間と言っても良いでしょう。そんなさわやかな気分で歩いていると、最近特に気がつくのは、極端にゴミの量（散乱の量）が少ない事です。この時期（観光時期）の嵐山の休日明けの朝といえば、あちこちに生ゴミ、各種バックが散乱し、それを狙うカラスが主役のような光景でした。

述

戒

有難し

恵み賜へり

天と地と人と

我が命

山内 徳三郎

佐々木 信綱翁

山内 徳三郎

佐々木 信綱翁

佐々木 信綱翁

佐々木 信綱翁

佐々木 信綱翁

佐々木 信綱翁

佐々木 信綱翁

―生かされている喜びに感謝感動の儘―

白内障手術（特に悪い方から先に施行さる）を了して

往年 健康保険が白内障の治療に未だ効かない時に

高橋先生が米国よりその技術を得られて

お歸りになられて直後に、その技術を断行された。

眼をあけて下さい。とのお言葉に括然として

先生のお庭が眼に入りました。

自他を識別する能力、眼に見えることは!!

如何ばかりの喜びでありませうか

お蔭さまにて、健康はすべてではありませんが

先づ、健康でなくては何も出来ません。

眼見ゆ

医師の君の眼手術は

光明の世界今現出す

光明の世界今現出す

光明の世界今現出す

光明の世界今現出す

光明の世界今現出す

光明の世界今現出す

光明の世界今現出す

光明の世界今現出す

光明の世界今現出す

光明の世界今現出す

光明の世界今現出す

両眼 見ゆ

加茂の川原を一人行く

この喜びを 大地に踏みつつ

この喜びを 大地に踏みつつ

この喜びを 大地に踏みつつ

この喜びを 大地に踏みつつ

この喜びを 大地に踏みつつ

この喜びを 大地に踏みつつ

この喜びを 大地に踏みつつ

この喜びを 大地に踏みつつ

この喜びを 大地に踏みつつ

この喜びを 大地に踏みつつ

この喜びを 大地に踏みつつ

右記の真卒 お禮状を 高橋先生に呈上しましたら、

先生から 立派なお歌を有難うございました。

医者冥利に盡きると思います。

と有難いお言葉を賜わった。

今でも、そのお蔭さまで、両眼とも外出、書見（この瓦版を

書くことも眼鏡無しで出来ることは何ものにもかえ難い

有難い、勿体無い）ことと偏に感謝している。

合掌

以上

合掌

以上

松谷みよ子の仕事展

2008年7月5日(土)～8月17日(日)

デビュー作『貝になった子供』から最新作である『自伝 じょうちゃん』まで、松谷みよ子さんの仕事は実に多彩です。幾重にも枝分かれしているかのような彼女の作品の根底には、ライフワークである民話探訪が様々な形となって生きています。

名著『龍の子太郎』のために筆をとってから50年にあたる今年、当館では「松谷みよ子の仕事展」を企画いたしました。

今もなお精力的に活動を続ける松谷みよ子さんの作品にあふれる魅力の深さ、広さを彼女の人生と作品を追いながらご紹介しします。是非ご来館ください。



『龍の子太郎』初版
松谷みよ子著 講談社1960

□開館時間：午前10時～午後5時
月曜休館（祝日の場合開館、翌火曜日休館）
□入 館 料：一般700円（600円）高大生500円（400円）
小中生300円（200円）
（ ）内は前売・団体10名以上の料金
□主 催：思文閣美術館
□監 修：松谷たくみ

●記念講演会（※先着100名 予約制）

・琵琶コンサート
7月19日（土）午後2時～3時
琵琶奏者：室井三紀さんによる、松谷みよ子さんの作品「龍の子太郎」「お月さんもいろ」などの演奏と琵琶のお話。

・講演会と被爆ピアノによるコンサート
7月27日（日）午後1時半～3時半（予定）
広島原爆を書いた松谷みよ子さんの作品『ミサコの被爆ピアノ』。松谷みよ子さんのお話と、モデルとなったピアノによるコンサートを開催。

思文閣美術館

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7
TEL. 075-751-1777／FAX. 075-762-6262
URL <http://www.shibunkaku.co.jp/artm/>